



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Theme of Rotary International 1993-4 *Believe in What You do Do What You Believe in* 行動に信念を 信念は行動に
1993-4年度国際ロータリーのテーマ/ロバートR・バースR.I.会長

■本日の例会 5月13日/第368回例会

■卓話 イニシェーションスピーチ 「証券業界一年生」

当クラブ会員
興銀証券(株)副社長 中村 宏 君

■前回報告 4月22日/第367回例会

■会長報告 (4月21日地区会長会報告)

- 紫野ガバナーより、会員増強についての再度のお願い、地区要請の義援金の収支報告、地区各クラブ活動実績中間報告があり、あと2ヶ月クラブ運営のご協力をお願い致しますとのことです。また、地区世界社会奉仕委員長より、地区主催チャリティーコンサート(4月20日開催)への各クラブのチケット購入協力に対してお礼の言葉がありました。

■親睦活動委員会(宮本委員長)

- 5月の火曜会は10日(火)です。スピーカー：新旧ソングリーダー委員長 本年度はあと2回、是非ご出席下さい。

■ソングリーダー委員会(二宮委員長)

- ロータリーソング“R-O-T-A-R-Y”について本日譜面をお配りしました。5月以降練習を始めますのでご協力下さい。

■社会奉仕委員会(田中委員長)チャリティーコンサート収支報告

去る2月26日当クラブ社会奉仕委員会主催のチャリティコンサートでは、120万円の収益をあげることが出来ました。収益金はアイメイト協会と泉の家へ寄付する予定です。会員の皆様のご協力に対して厚く御礼申し上げます。

■出席報告 ●会員72名中/出席46名/欠席26名(うち出席免除者6名)

4月15日修正出席率92%

ビジター(地方3名、都内9名・敬称略)麻生 誠(福岡)/村田 秀太郎(京都山城)/熊沢 登(名古屋・あま)川田 昭(東京世田谷)/宮崎 英一郎(東京新橋)/高木 彦二(東京)長原 道徳(東京品川)/浅野 五郎・H. Schmidt・鈴木 治己・野末 源一・山口 栄一(以上東京南)

ニコニコBOX

順不同、敬称略

4月22日20件

¥60,000

93-94年度累計

¥2,049,231

多額の御寄付を有難うございました。

相澤 成憲/先日細川首相最初で最後の観桜会に招かれました。田島さん、ご多忙の中、週報の原稿ありがとうございました 荒木 昭文/だんだん海のシーズンが近づきます 馬場 一廣/よい日とです 廣江 勲/石坂会長のニコニコ担当の趣旨に賛同して 伊部 和夫/連休はゴルフさんまいです 入沢 頼二/宮本さん実物よりよく写っている写真をありがとうございます 梶内 滋男/4/16孫誕生、おじいちゃん達の仲間に入りました 川鍋 二郎/宮本さん写真ありがとうございます 松原 秋夫/休みが続きましたので 宮本 正祥/連休に備えて… 宮武 保義/メイク・アップが続き久し振りの例会出席です 沖 宏之/ゴールデンウィーク無事で過ごされますよう 斉藤 茂之/5/1 HONGKONGで保険満期となります 新保 國彦/ゴールデンウィーク2回、お休みが続きますので 鈴木 重徳/専門家向け生態系の環境改善マニュアルを出版しました 横山 秀明/平井さん、宮本さん写真ありがとうございます 吉岡 琢磨/宮本さん有り難うございます 吉田 用親/4/29、5/6と2週連続休会になります(残念ながら) 渡邊 治/昨日、次年度ロータリー情報委員会の第一回打合会を開催いたしました。ご出席の皆様方にお礼申し上げます 石坂 二郎/本日ニコニコ担当、皆様の御協力感謝致します

「日米関係の行方。アメリカの考えは…」

外務省大臣官房人事課長 谷内 正太郎 氏

冷戦後の今日の世界は、100年あるいは200年に1度の大きな変革期にあります。17世紀半ばに成立した近代国際社会の地盤が揺らぎ、主権国家体制が動揺しているのです。冷戦時代には、米ソの2大超大国によるバランス・オブ・パワーすなわち軍事力の均衡によって平和と安定が保たれていたといえます。しかし今や、軍事力から経済力へ支配力は変化してきているのです。それとともに、国家間の経済的相互依存が深まり、一昔前であれば内政干渉と言われかねないような国家間の経済政策への要請が行われるようになっております。

このような世界全体の変化を背景として、日米関係も大きな曲り角に立たされています。ひと言で申し上げれば、保護者—被保護者、あるいは先生—生徒の関係にあったものが、対等の関係に移りつつあるのです。もちろんこの背景には、日本の経済力が強大になったことがあるわけです。2、3年前には、日本は世界最強の経済大国とまで言われるようになったのです。

米国から見ると、戦後の復興からつい最近まで日本はオードリー・ヘップバーンが演じたマイ・フェア・レディのように模範生であったのに、いつのまにか強大になり過ぎてしまい、今や日本に追い越されるのではないかと不安に駆られ焦っているというのが多くの米国人の心理ではないでしょうか。そこから、日本を異質の国と見なしジャパン・パッシングに走るリビジョニズムが台頭してきたわけです。

昨年の米国の対日赤字は約600億ドルに上り、クリントン政権にとってこの赤字の削減が優先課題となっています。ご承知のように日米の枠組み協議は、2月の首脳会談において、「数値目標」をめぐる対立のために凍結されました。日本の自由貿易堅持の立場は欧米諸国において広く支持はされましたが、その後の円高によって日本はこの日米協議を何とかまとめなければならぬ事情に迫られている感じがいたします。その期限は7月のナポリ・サミットまでということになりましょう。

クリントン政権ではこのように米国経済の立て直しが最も重要な課題となっており、国内経済の立て直しという内政が、日本への輸出目標の設定や市場解放、規制緩和、所得税減税等々の要求に見られるように外交に反映されるようになってきているのです。また、米国にとって日本は叩き易い存在であり、日本を叩くことによって政権の基盤を強化できるというのも、クリントン政権が直面している現実の一面であるわけです。

今や、全米の大学の日本講座で、リビジョニストの手になるテキストが使われ、多くの米国の若者の対日観の形成に大きな影響を与えるようになっており、この点に私たちは深い懸念を覚えています。

米国からは日本は“叩けば折れる国”と見られてきました。日本は日米安保体制の堅持のためにそうせざるを得なかった面もあります。しかし米国は、ブレストウイツ氏も発言しているように日米の安全保障の枠組を堅持することが基本であり、経済問題はこれとは切り離して論ずべきだという考えのようです。これは私たちにとって大変心強いことです。

私たちも米国の要求に感情的に反発したり、ただノーというだけでは、この危機をのりこえて新たな日米関係を築くことはできません。米国の要求の中には、米国から言われる前に自分たちの問題として取り組むべき課題がたくさんあります。規制緩和もそのひとつです。日本はノーというだけでなく代替案を出さなくてははいけません。

多くの米国人と交渉してきて強く感じますが、米国人は善意の人が多いと思います。こちらから心を開き、彼らの主張を理解する努力も必要でしょう。日米の信頼関係を国民レベルで築きあげなければなりません。21世紀に向けた日米の国益は重なっており、日米協調は国際社会に大きな貢献を果たすことでしょう。私は基本的には楽観的に見ております。

(まとめ横山)

●お知らせ

4月23日より当クラブの事務局が下記に移転いたしました。

(新所在地) 〒107 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階

TEL 03-3505-5976 (変更なし)

FAX 03-3505-6004 (変更なし)

●次週予告

5月20日/第369回例会

■卓話予定 「どうなる政局、現場からの最新情報」

TBS政治部長 平本 和生 氏

東京新南ロータリークラブ

会長：斉藤茂之 副会長：廣江 勲 幹事：吉田用規

〒107 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日・12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

〈会報委員〉

後藤信夫、相澤成憲、加藤昌明、

河原勢自、川鍋二郎、小原 健、

横山秀明、関 征春、山下忠治、

宮澤 博

●印刷／豊圓堂印刷(株)